

佐賀県佐賀郡大和町 (三日月町?)	宇佐市佐々礼 九ノ池	宮崎市有田 大戸迫池
山王池	杵築市 張付田池	宮崎市浮田 倉瀬池
	杵築市 白水池	宮崎市浮田 西田池
〈熊本県〉	下毛郡三光村成恒 ため池	宮崎市富吉黒田池
熊本市 江津湖		宮崎市富吉小池
熊本市秋津 クリーク	〈宮崎県〉	宮崎市京塚 ため池 (池名不詳)
荒尾市八幡桜山	児湯郡木城町椎木 岩淵池	宮崎市柏原 柏原大池
八代市 八代城堀	西都市馬継谷、河跡湖	東諸県郡高岡町飯田 冷窪池
八代郡高村	西都市加勢 八反丸池	
玉名郡	西都市三宅 ため池 (池名不詳)	〈鹿児島県〉
	宮崎郡新富町瀬口 用水路	川内市 寄田町 小比良池 (1977, KYO)
〈大分県〉	宮崎郡佐土原町巨田 巨田池	
中津市大貞 御澄池	宮崎市瓜生野 さぎす池	川内市 みやま池
宇佐市高森 大池	宮崎市跡江 深田池	熊毛郡中種ヶ町 (種子島) 宝満池 (1920, KYO)
宇佐市真近 剣ノ池	宮崎市跡江 深田上池	
宇佐市赤尾 古池	宮崎市有田 天神出池	

○ため池の自然談話会『身近な水辺ため池の自然学入門』  
(合同出版, 1994年8月, 167p, 1,600円)

ため池は、天然の湖沼よりもずっと数が多く、表題のとおり身近な水辺である。しかし、その身近さの故に、かえって自然の大切さが顧みられなかった一面がある。余談になるが、本書の編集委員代表であり水草研究会の副会長でもある浜島繁隆氏が以前『池沼植物の生態と観察』(ニューサイエンス社, 1979) という本を出されたとき、「ため池の植物」では本が売れないから池沼植物になったのだという話を伺った。それを思えば、ため池にもようやく光が当たりはじめたということになろうか。ため池の価値を見直そうという動きが、最近各地で起こりつつある。この本の著者たちは、一足早くため池の大切さに気付き、主として名古屋市周辺で地道な調査活動を進めてきた人たちである。その調査の成果に立脚してため池の自然を紹介し、保全の道を探ろうとしたのが本書である。

「わが国のため池」、「ため池の水環境」、「ため池の環境と生物」、「都市化とため池の変貌」、「ため池の保全」の5章からなり、11人の著者が自分の専門分野について、調査データを示しながら水質、動物、植物などについてため池の特質を論じている。水草は言うに及ばずだが、海綿やクモ類が登場するのはユニークで興味深い。数式も登場して論文風になっている部分や平易な解説に徹し

ている部分など、担当者によって書き方に違いがあるが、それはあえて統一しなかったという。ため池の自然を真正面から扱った類書がなかっただけに手頃な入門書として手元に置かれることをお薦めしたい。

○藤田 昇・遠藤 彰編『京都深泥池 氷期からの自然』  
(京都新聞社, 1994年8月, 183p, 1,400円)

京都市の市街地に接して国の天然記念物「深泥池生物群集」は存在する。20年程前に行なわれた総合調査に私も関係したが、そのときは1万年の歴史を今に伝える池であるとその貴重さを訴えたものだ。ところが、その後の調査で14万年もの歴史をもつ池であることが明らかになった。

さまざまな保護活動があって水質は回復し、帰化水草の猛威もなくなった。今ではジュンサイやヒメコウホネが咲き、タヌキモが漂う静かな水面が蘇ってきたかにも見える。しかし、周辺では道路の拡幅計画など深泥池の命取りとなりかねない計画が進んでいる。こういう時期に深泥池の自然を再認識しようと地元の新聞が一年間の連載を行なった。それを収録したのが本書である。44人の執筆者が、環境、生物、歴史、保護の課題とあらゆる角度から幅広い話題を取り上げ、深泥池の保全を訴えている。

(角野康郎)